



# まさひで もはら正秀の市議会だより 1月号

第24号A版 2008年1月15日発行



もはらさん、『人口減少』や『少子高齢化社会』という言葉をよく聞くけど、富岡市はどんな状況なの?

クマ吉くん、富岡市もこれからは人口が減少し、高齢化が進むことになるんだよ。データを見ながらちょっと考えてみよう。



## 富岡市の人口動向と今後の課題について



平成17年度の富岡市の人口はおよそ53800人でしたが、この5年後の平成22年は52600人、さらに10年後の平成27年には50700人まで、人口は減少することが予想されています。この10年間の人口減少率は約6%とたいへん大きく、また年齢別構成を見ますと、以下のようなことが分かります。

平成17年に24%であった高齢化率(65歳以上の人口比率)は、平成27年には30%に上昇する。

(65歳以上の高齢者人口は12700人から15100人に増加)

平成17年に62%であった現役世代(15歳~64歳)の割合は、平成27年には58%に下がる。

(現役世代の人口は33600人から29400人と、4000人以上も減少)

同様に15歳未満の割合は14%から12%に下がる。

(15歳未満人口は7500人から6200人まで減少)

このコーナーのデータは富岡市が総合計画策定に当たって発表したものです

わずか10年でずいぶん変わるんですね。驚きましたよ。

富岡市の平成17年と27年の年齢別構成比



平成27年には10人の内、高齢者は3人、15歳以下は1人強というところまでいってしまうんだ。



日本でも『人口減少』『少子高齢化』が進み、平成37年には1人の高齢者を1.9人の現役世代が支える社会がやって来るといわれています。しかし、富岡市の場合は日本全体の高齢化のペースよりも10年早く、平成27年の時点でこれに近い状況になると予想されます。

この人口動向を考えると、今後は『人口が減少してもやっつけける行政であること』が重要です。特に現役世代人口の減少ペースが速いことから、早急にスモール&コンパクトな行政に転換していく必要があります。継続して行われる事業は、5年後、10年後の人口動向を考えながら、早めに持続可能な規模や方法に変えるべきではないでしょうか。

また、『人口減少と高齢化に歯止めをかける』政策も欠かせません。活力ある富岡市を築くには、『できるだけ人口を減らさないこと、特に現役世代の人口を維持していくことが重要である』と私は考えます。現役世代の人口が多いほど、市に入る税収は増え、地域経済の規模は拡大し、社会に活気が生まれます。そのために、若者の定住化に向けた対策や雇用・就業環境をつくるのが重要な政策課題になります。今年はこの分野で先進的な取り組みを行う自治体を研究し、議会で提案して参ります。

最近『格差』という言葉がよく用いられますが、これからは『地域間格差』がどんどん広がっていくのではないのでしょうか。便利で快適な暮らしができる地域には人が集まり、そうでない地域は一気にさびれていくことも今後は十分に考えられます。12月議会で平成20年から平成27年までを期間とする第1次富岡市総合計画の基本構想・基本計画が策定されましたが、この8年間で富岡市が魅力的なまちになれるように、一議員として全力で頑張ります。

### 市民のみなさまから頂きましたご意見コーナー

お正月を迎える前の市報といっしょに全戸配布されていた『門松のお札』が昨年はありませんでしたが、なぜなのでしょう? (その他、『廃止は議会で決めたのか』など多数) もはら この件につきましては、議会で決めた訳ではございませんし、当局からの説明も頂いておりませんので、理由は分かりませんが(1月15日現在)、財政的な事情ではないかと推測されます。しかし、『門松のお札』を2枚ずつ全戸配布するための費用はおよそ9万円で、廃止による財政的なメリットはほとんどありません。『新年を迎えるのに欠かせない品』として多くの方々お待ち望まれていることを考えれば、来年からは復活させるべきだと思います。

### 茂原正秀(もはら まさひで)プロフィール

昭和33年11月23日生49歳 富岡市議会議員2期目  
経済建設常任委員 富岡甘楽衛生施設組合議員  
国民健康保険運営協議会委員 工業振興対策委員  
商業振興対策委員 社会教育委員

市政に関する疑問やご意見、どうぞお気軽にお聞かせください!  
メールには必ずご返事いたします!  
頂いたご意見は、必ず担当部署に伝え、ご返事させていただきます!  
重要なお意見は、市政に反映させるため、一般質問で取り上げます!

